

Executive Summary

エグゼクティブ・サマリー

この「Fujitsu Technology and Service Vision」は、ICT(Information and Communication Technology)がどのようにビジネスと社会のイノベーションに貢献するのかについて、富士通の考えをまとめたものです。

皆様がビジネスの成長や社会課題解決に向けたイノベーションを創り出していく上での参考となれば幸いです。

新たな未来の到来

ヒューマンセントリック・インテリジェントソサエティ

あらゆるものがつながっていく新たな世界「ハイパーコネクテッド・ワールド」が出現しつつあります。そこでは、人や私たちのまわりのモノがつながって情報がやりとりされていきます。人々が境界線を越えて協働し、ビジネスや社会が価値を生み出す方法が変わるとともに、新たなリスクや不確実性が生じてきます。

この新たな世界を生み出す原動力が、次世代のインターネットと言われる「Internet of Things(IoT)」です。人、情報に加

えて、車やエアコン、洗濯機、冷蔵庫、電子レンジ、あるいは電灯まで、多種多様なモノがインターネットにつながっていきます。これらインターネットにつながるモノは、2013年の100億個から、2020年には500億個にも増加すると予測されています。そして、そこを流れる膨大な情報から、ビジネスや社会に有益な新たな知識が生み出され、大きな経済価値を創出していきます。

一方、新たなテクノロジーの普及に伴い、企業や個人がイノベーションを実現するハードルが低くなっています。革新的な製品やサービスの開発、製造、試験、実行のフェーズを迅速に行うことができます。イノベーションを生み出すための時間は、かつての年月ではなく、日時で測る時代になってきています。

ただし、このように大きな機会が広がる半面、新たな脅威も浮上してきます。情報セキュリティの確保と個人のプライバシー保護が共通の大きな課題となります。

このハイパーコネクテッド・ワールドで競争優位性を築く鍵は何になるのでしょうか。この答えは「人」です。

これまでは、最新のテクノロジーを活用できること自体に競争優位性がありました。しかし、様々なテクノロジーを自由に活用できる世界では、この優位性は崩れてきます。多様なテクノロジーと情報を組み合わせ、どのようにビジネス・社会モデルを革新するかという知恵、すなわち、人の創造性が競争優位性を生み出す源泉となっていきます。人を重視するヒューマンセントリックな時代へと、大きな時代の転換が始まっているのです。

富士通は、ヒューマンセントリックなICTの力で、より安全で、豊かな、持続可能な社会を築いていきたいと考えています。ここでは、情報から得られる新たな知識が、人々のイノベーションを加速していきます。富士通では、こうした未来の社会を「ヒューマンセントリック・インテリジェントソサエティ」と呼び、様々な企業活動に取り組んでいます。



ヒューマンセントリック・イノベーション

ヒューマン・エンパワーメント

人をつないで、カブける

コネクテッド・インフラストラクチャー

あらゆるものをつなぎ、
ビジネス・社会基盤全体を
最適化



クリエイティブ・インテリジェンス

情報からの知の創造

エコシステムにおける価値の共創



ヒューマンセントリック・イノベーション

ハイパーコネクテッド・ワールドにおいて、イノベーションを生み出すための重要な要素は、「人・情報・インフラ」という三つの経営資源です。それぞれから、①ICTの力をテコに、どのように人をつないでカブけるのか(ヒューマン・エンパワーメント)、②どのように情報から知を創造するのか(クリエイティブ・インテリジェンス)、③どのようにICTと多様なモノをつなげて価値を創造するビジネス・社会の基盤を整備するのか(コネクテッド・インフラストラクチャー)——という課題が導き出されます。

これからの時代におけるイノベーションへの新たなアプローチは、人・情報・インフラの3つの経営資源を融合させるソリューションやサービスを通じてビジネス・社会の価値を実現していくことです。富士通はこれを「ヒューマンセントリック・イノベーション」と呼んでいます。この実現には、お客様が持つビジネスに関するノウハウと、ICTのノウハウを組み合わせることが必要です。富士通は、お客様のイノベーション・パートナーとして、必要なテクノロジーとサービスのポートフォリオを提供し、その実現をお手伝いしていくことに企業活動を集中していきます。

オープンなエコシステムによる、イノベーションの共創

ハイパーコネクテッド・ワールドでは、複数の組織が新たな価値を共創することが容易になります。一つの閉じた組織が価

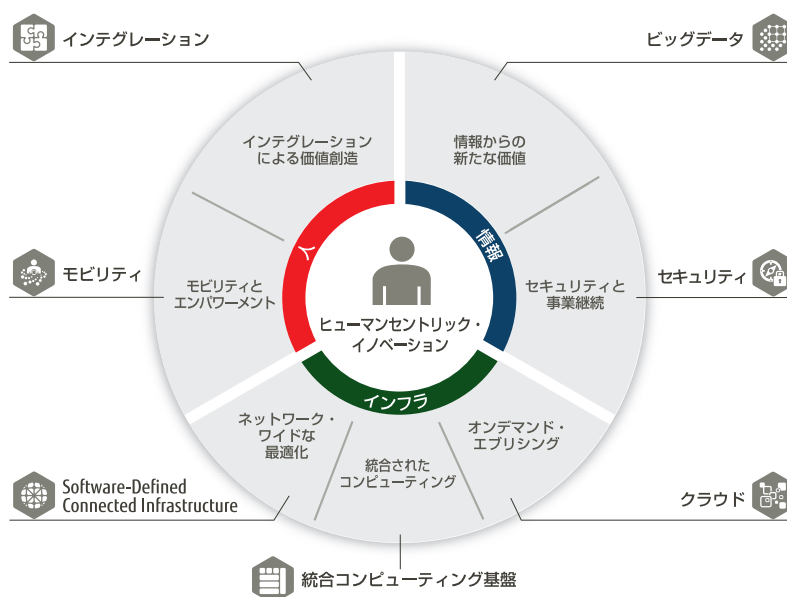
値創造に取り組むよりも、多様な知識や知恵を持った人々が垣根を越えて協働することによって、より革新性を持ったアイデアが短期間で創り出されることが期待できます。これからのイノベーションは、多彩な人々あるいは多様な企業の共創によって生み出されるのです。

ヒューマンセントリック・イノベーションも、一つの企業や組織に閉じるものではなく、分野や業種の壁を越えて、オープンなエコシステム(生態系)を基盤として生み出されていきます。

オープンなエコシステムを構築するメリットは、「規模」と「多様性」です。エコシステムにおいては、これまでのように企業が固定的なバリューチェーンを通じて商品やサービスを提供するのではなく、業種の壁を越えて複数の企業や組織にまたがって人・情報・インフラをつなげていく、開かれたバリューチェーンを通じて価値を提供するようになります。かつては、商品やサービスは、大量消費市場を狙った標準化された低付加価値・低コストのものか、あるいはニッチ市場を狙った高付加価値・高コストのものいずれかでした。しかし、この新たなビジネス形態は、エコシステムがもたらす「規模」と「多様性」を活用することにより、一人ひとりのユーザーの異なるニーズに合った高い付加価値を低コストで提供することを可能にしていきます。これは非常に大きなビジネスの革新です。そして、クラウド・サービスが、エコシステム内の多様なサービスを結合する役割を果たします。

富士通は、お客様やパートナーと共に、エコシステムを活用したビジネス・社会のイノベーションの共創に取り組んでいきます。

富士通が提供する価値



詳細は「Fujitsu Technology and Service Vision 2014」をご参照ください。